

財産権の大いなる誤解

開発における理論、現実、展開

フランク・K・アッパム／著 金子由芳・入江克典／訳

本書は、米国における日本法・中国法研究の大家として知られる著者フランク・アッパム (Frank Upham) 教授が、2010 年度に神戸大学客員教授として滞在中に実施したアジアの土地法改革に関する研究成果の翻訳である。原著は Cambridge University Press から 2018 年に出版され国際的に高い評価を得た。

イギリス、アメリカ、日本、中国、カンボジアの幅広い事例を取り上げながら、土地の市場取引を土台とする経済成長が、静的な道具としての「法」の成果ではなく、むしろ「法」による権利の確執と闘争を経て展開されたとする歴史的な洞察を踏まえ、国際機関が今日アジア・アフリカにおいて主導する法制度改革に批判的視座を投げかけており、近代化・開発過程の社会における法の本質に迫る。

研究者、開発支援に関与する実務家のみならず、法学部生などの学生を含む、多くの読者にとって示唆に富む啓蒙の書である

●本書の内容

1章 序章

本書の構成

2つのレッスン

2章 物理学的な羨望－開発理論における財産権

新制度派経済学の勃興

実務における財産権理論：法と開発運動

3章 財産権と市場－イギリスとアメリカ

羊が人を食らった時代：イギリスの囲い込み運動

公害が“自然”とされた時代：19世紀のアメリカ

財産法の変容

サンダーソン第四訴訟 (Sanderson IV) の判断理由

法、財産権、そして創造的な解体

4章 財産権と政治－日本

戦前日本の小作農問題

土地改革

政治的な便宜から市場の効率化へ

5章 法なき「法と開発」－中国

改革開放以降の中国財産法の変遷

中国の経済成長における財産権の欠落

中国の経験と財産法理論

6章 理論の実践－カンボジア

カンボジア土地法の進化

実施のプロセス

反対事実の検証

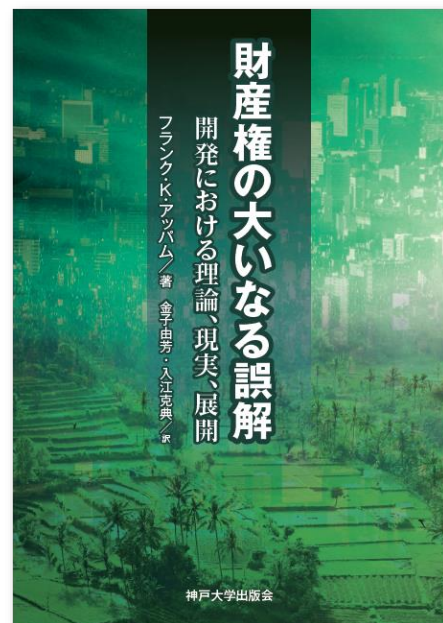
7章 財産権と社会の変化

絶え間ない変革と比較的静かな期間

法の役割は何か

財産権の解体は正統か？

財産権の解体の必要性は開発実務において何を意味するのか？



A5判並製・172ページ 定価2,530円(税込) 2023年4月発売

発行：神戸大学出版会 神戸市灘区六甲台町2-1 神戸大学社会科学系図書館内 TEL078-803-7315 FAX078-803-7320

発売：神戸新聞総合出版センター 神戸市中央区東川崎町1丁目5-7 神戸情報文化ビル9F TEL078-362-7138 FAX078-361-7552